

試験計画書

依頼者 株式会社 CLO2 Lab 殿
依頼日 2019年4月24日
試験項目 抗ウイルス性試験

供試ウイルス

ネコカリシウイルス Feline calicivirus F9 ATCC#VR-782

ディープフリーザーによる長期保存株ウイルス液を凍結融解した後、イオン交換水(微生物用)にて10倍希釈を行い、ウイルス浮遊液として使用する。

試験内容

- 1) 対照区 イオン交換水(微生物用)
- 2) 試験区 OXIDER スプレー

事前検証項目

- 1) 細胞毒性試験

上記試料に SCDLP ブイオン培地を添加し(ウイルスは混和しない)、30分間静置後試料による細胞への影響を確認する。

- 2) 細胞感受性試験

上記試料に SCDLP ブイオン培地を添加し、続いてウイルスを混和する。
30分後にウイルスの検出数を確認する。

本試験

試料 1mL に対し、供試ウイルス液 1mL を混和する。

混和直後と指定時間後に SCDLP ブイオン培地を 18mL 混和し、
総量を 20mL として細胞接種用の試験液とする。

ウイルス感染価の測定

ウイルス宿主細胞によるプラークアッセイ法に基づきウイルス感染価を測定し
接種から 2~3 日後に固定染色を行い、形成されたプラークを数え、

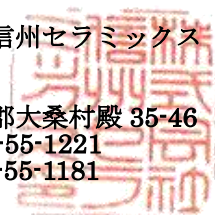
細胞感受性試験: 試験液 1mL 中のウイルス数を対数値に換算し単位を[PFU/mL]とする。

本試験 : 試験液 20mL 中のウイルス数を対数値に換算し単位を[PFU/sample]とする。

2019年5月16日

試験報告書

株式会社 信州セラミックス

〒399-5501
長野県木曾郡大桑村殿 35-46
TEL : 0264-55-1221
FAX : 0264-55-1181

依頼者 株式会社 CLO2 Lab 殿
品名 OXIDER スプレー
試験日 2019年5月13日
試験項目 抗ウイルス性試験
ウイルス ネコカリシウイルス Feline calicivirus F9 ATCC#VR-782
試験方法 液体試料とウイルス液混合後の減少傾向
CrFK 細胞を用いたプラークアッセイ法
検体 n=3

試料	ウイルスの粒子数と対数換算[PFU/sample]		
	接種直後	15 秒間静置後	60 秒間静置後
対照区 イオン交換水 (微生物用)	6.19 (1566667 個)	5.94 (866667 個)	6.00 (1000000 個)
試験区 OXIDER スプレー	2.88 (767 個)	<2.00 (100 個未満)	<2.00 (100 個未満)

試料	細胞毒性試験	細胞感受性試験	
	毒性	ウイルス感染価 [PFU/mL]	影響
対照区	-	1.97	
試験区	なし	1.80	なし

本試験結果は試料として切り出した一部のものであり、荷口全体の品質を保証するものではありません。

本報告書の全部、または一部の無断転載・転用を固くお断りします。押印のない報告書は正式なものではありません。

作成



2019年7月29日

試験報告書

株式会社 信州セラミックス

〒399-5501
長野県木曾郡大桑村殿 35-46
TEL : 0264-55-1221
FAX : 0264-55-1181

依頼者 株式会社 CLO2 Lab 殿
品名 オキシサイダー低濃度二酸化塩素ガス
試験日 2019年7月26日
試験項目 抗ウイルス性試験
ウイルス インフルエンザウイルス influenza virus H3N2A/kitakyuusyuu/159/93
試験方法 試料低濃度蒸気とウイルス液反応後の減少傾向
MDCK 細胞を用いたプラークアッセイ法
検体 n=3

試料	ウイルスの粒子数と対数換算[PFU/sample]		
	接種直後	24時間静置後	
対照区 水 微生物用	7.09 (12333333 個)	6.70 (5000000 個)	
試験区 オキシサイダー低濃 度二酸化塩素ガス	-	5.26 (181667 個)	

本試験結果は試料として切り出した一部のものであり、荷口全体の品質を保証するものではありません。

本報告書の全部、または一部の無断転載・転用を固くお断りします。押印のない報告書は正式なものではありません。



試験報告書

依頼者 株式会社 CLO2 Lab

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 二酸化塩素 ゲル剤

表題 脱臭効果試験

2018 年(平成 30 年)02 月 09 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

脱臭効果試験

1 依頼者

株式会社 CLO2 Lab

2 検体

二酸化塩素 ゲル剤

3 試験概要

検体についてアンモニア、トリメチルアミン及び硫化水素の脱臭効果をガス検知管法により試験した。

4 試験結果

試験結果を表-1～3並びに図-1及び2に示した。

表-1 アンモニアの試験結果

(単位 : ppm)

試料区分	経過時間 (min)	
	10	30
検体	19	<1
空試験	100	96

初期ガス濃度 : 約100 ppm

<1 : 定量下限 (1 ppm) 未満

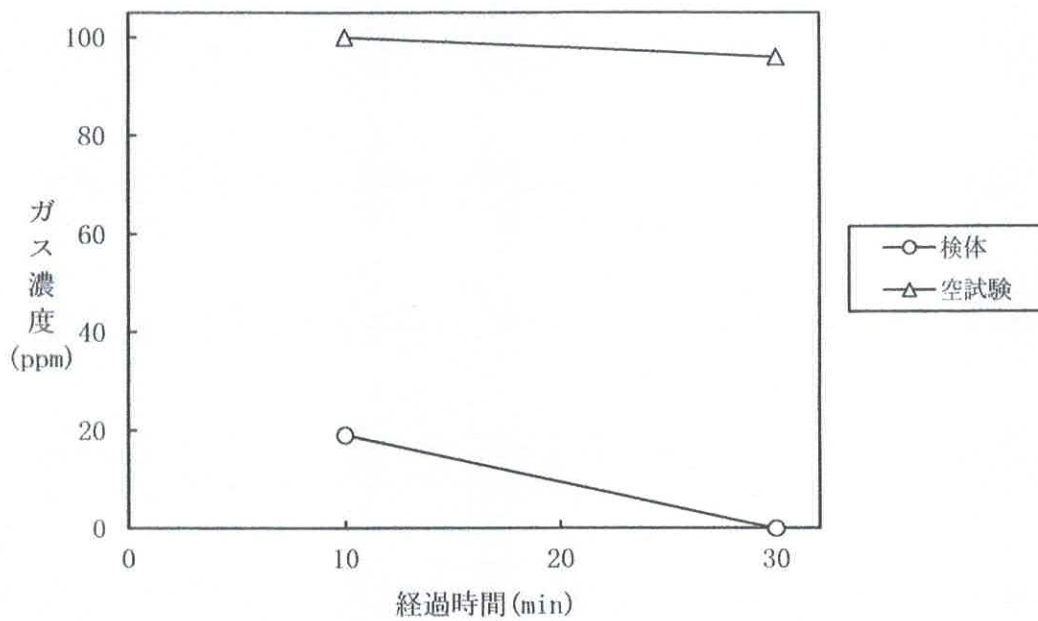


図-1 アンモニアの試験結果

表-2 トリメチルアミンの試験結果

(単位：ppm)

試料区分	経過時間 (min)			
	10	30	45	60
検体	36	4	2	<1
空試験	70	70	70	70

初期ガス濃度：約70 ppm

<1：定量下限(1 ppm)未満

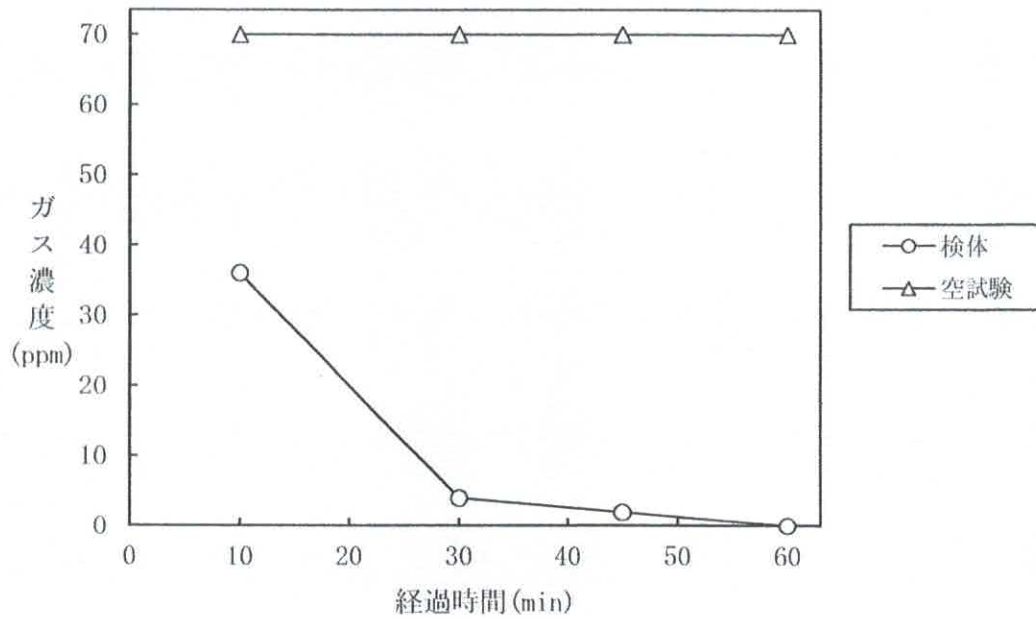


図-2 トリメチルアミンの試験結果

表-3 硫化水素の試験結果
(単位：ppm)

試料区分	経過時間
	10 min
検体	<1
空試験	20

初期ガス濃度：約20 ppm

<1：定量下限(1 ppm)未満

5 試験方法

1) 試薬及び器具

におい袋 (35 cm×50 cm) [アラム株式会社]

におい袋 (35 cm×50 cm) [ジーエルサイエンス株式会社]

アンモニア：アンモニア水 (28 %，特級) [小宗化学薬品株式会社] から発生させたガスを用いた。

トリメチルアミン：トリメチルアミン水溶液 (28 %) [東京化成工業株式会社] から発生させたガスを用いた。

硫化水素：硫化鉄 (II) (硫化水素発生用) [小宗化学薬品株式会社] に希硫酸を加えて発生させたガスを用いた。

ガス検知管 [株式会社 ガステック]

2) 操作

48時間室温静置した検体をにおい袋に入れ、ヒートシールを施した後、空気9 Lを封入し、設定したガス濃度となるように試験対象ガスを添加した。これを静置し、経過時間ごとに袋内のガス濃度をガス検知管を用いて測定した。また、検体を入れずに同様な操作をしたものを空試験とした。

試験条件を表-4に示した。

表-4 試験条件

検体使用量	1個
試験対象ガス (初期ガス濃度)	アンモニア (約100 ppm) トリメチルアミン (約70 ppm) 硫化水素 (約20 ppm)
温度条件	室温
測定時間	10, 30, 45及び60分 (ただし、測定値が定量下限未満になった時点で終了)

以 上